

事後評価結果（平成21年度）

担 当 課：関東地方整備局道路部道路計画第一課
担当課長名：古川 慎治

事業名	一般国道50号 <small>いわせ かんれん</small> 岩瀬IC関連	事業区分	一般国道
事業主体	国土交通省 関東地方整備局		
起終点	自： <small>いばらきけんさくらがわしなかいずみ</small> 茨城県桜川市中泉 至： <small>いばらきけんさくらがわしおさかた</small> 茨城県桜川市長方	延長	1.0 km

事業概要

一般国道50号は、北関東3県を結び首都圏の北部環状を形成するとともに、北関東内陸部と常陸那珂港等を連絡する主要幹線道路である。岩瀬IC関連は、茨城県桜川市中泉から桜川市長方までの延長1.0kmの現道拡幅とICアクセス道路を整備する事業である。

事業の目的・必要性

岩瀬IC関連は、北関東自動車道桜川筑西ICへのアクセス向上を図るとともに、茨城県西地域と県内都市部の交流の促進を目的としている。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H11年度	用地着手	H13年度	供用年	(当初) / H19年度	変動	1.0倍
		都市計画決定	H2年度	工事着手	H14年度	(暫定/完成)	(実績) / H20年度		
	事業費	計画時	(名目値) / 60億円	実績	(名目値) / 73億円	変動	1.2倍		
		(暫定/完成)	(実質値) / 58億円	(暫定/完成)	(実質値) / 70億円				
	交通量	計画時	(H32)	実績	(H21.01)	変動	-72%		
		(暫定/完成)	/17,600台/日	(暫定/完成)	/5,000台/日				
	旅行速度向上		36.1	41.5 km/h	交通事故減少	113	64件/橋台キ口		
		(供用前現道 当該路線)	(供用直前年次)H19年度	(供用後年次)H20年度	(供用前現道 供用後現道)	(供用直前年次)H19年	(供用後年次)H20年		
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C	2.4	総費用	52億円 (事業費: 49億円 維持管理費: 3億円)	総便益	126億円 (走行時間短縮便益: 103億円 走行経費減少便益: 16億円 交通事故減少便益: 7億円)	基準年	平成11年
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.7	総費用	85億円 (事業費: 82億円 維持管理費: 2.4億円)	総便益	142億円 (走行時間短縮便益: 139億円 走行経費減少便益: 0.02億円 交通事故減少便益: 3.0億円)	基準年	平成21年
	事業遅延によるコスト増			費用増加額	0.13億円	便益減少額	6.05億円		
	事業遅延の理由 埋蔵文化財調査及び側道、調整池等の追加整備による。								
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間の削減） ・物流効率化の支援（茨城港（常陸那珂港）へのアクセス向上） 他9項目に該当								

	その他評価すべきと判断した項目
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目
	その他評価すべきと判断した項目
事業評価監視委員会の意見 さらなる事業評価及び改善措置の必要はないものと認める。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 渋滞緩和、物流効率化の支援等の効果が発現されており、さらなる事業評価及び改善措置の必要はないものと考えられる。	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	
特記事項	

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。